

長島副大臣及び伊藤委員長
復興推進委員会ぶら下がり記者会見録

(平成28年5月27日(金) 11:30～11:40 於) 東京都千代田区)

1. 発言要旨

(伊藤委員長)

それでは、私のほうから会議の中身について簡単に御説明させていただいた後、御質問を私なりあるいは副大臣にお願いしたいと思います。

はじめに3県から、震災の5周年を契機とした情報発信、それから風評・風化対策の取組についての御報告がございまして、さらに観光復興につきまして、東北が一体となって連携して様々な取組を充実させていくことが重要なので、是非3県を訪れて、魅力を感じていただきたいという御発言が3県それぞれからございました。ある委員からは、観光と食、あるいは観光と教育などの異分野を組み合わせて相乗効果を生み出したり、地域の魅力を効果的に、しかも持続可能な仕組みとして発信していくべきだという御意見がございました。

また、海外の方から選ばれるような魅力の分析が重要との御意見も、複数の委員からございました。

別の委員からは、何人かの委員からは、他の地域でも震災は起こりうるので、震災学習や防災・減災についての日頃からの準備の必要性をできるだけ多くの国民に認識してもらうことが重要だとの御意見がございました。

また、熊本の地震を見ましても、東日本大震災の経験を参考にしていることは大いにあり、今後も事例の蓄積や共有など、全国的に対応できる仕組みを調整してやっていくべきとの御意見がございました。

あと、個別子どもの心と体の健康のことについて、より強力に推進、連携して取り組むことが必要との御意見がございました。

また、別の委員からは、復興が進むにしたがって、状況は変わるものである。このような場、つまり今日の会議の中で、自治体や国が全体の進捗や次の手当てについて話し合っていくことが重要であると。5年、10年先を見据えた手を打っていくべきだとの御意見がございました。大体、以上のような御発言でございます。

2. 質疑応答

(問) 今の、熊本にまたとか、今後の防災に対応するために、これまでの蓄積をとということでしたけれども、何か具体的に取まとめをつくるとか、そういうグループをつくって何かこう成果を出す

というような、具体的なところまでお話が及んだんでしょうか。

(伊藤委員長) いえ、あのそれは今回特にはないですね。むしろどちらかというところ、東日本の大震災、5年たっているいろんな経験が蓄積されていて、その中には、何と言うんですか、東日本だけではなくて、日本どこで起こっても有効、役に立つ経験とか情報いっぱいあるわけですから、それもしっかりやはりまず整理して残して、もちろんかなり進んでいるわけですが、ほかの地域なども共有できるところがあるんじゃないか。

東日本の方々は当然、5年間いろいろ大変な思いを、被災したわけですから、いろんな個別の事柄について経験があるわけで、そういうものを今後どういうふうな形で、熊本に限らずお伝えできるような仕組みみたいな必要なのかなというふうにおっしゃったというふうに理解しているんですけれども。

(問) 長島副大臣に伺いたいんですけれども、6月は復興月間ということで、今日はそのお話もあったかと思うんですけれども、副大臣としての御所感を伺えればと思うんですが。

(長島副大臣) 大臣が常々言っているとおり、5年を過ぎて、我々復興庁としてもきちんとできてきたこと、課題として残った、これからやらなければいけないことを検証しながら、被災地の今日の姿をやはりきちんと理解をしてもらうこと。そして、そこでまた日本の、あるいは外国の皆さんから被災地のことをよりよく知ってもらうという月間にしたと。

私も大臣もいろんな所へ出掛けさせていただいて、そのことをやはり努めてまいりたいというふうに思っております。

(以 上)